



インド人の先生が英語でパソコンを教える（東京都三鷹市）

JAPASSIA

アジアの中の日本

「引越してでも、入園したいのですが」。インド人のラニ・サンク園長（49）が東京都三鷹市で運営する「リトルエンジェルズ インターナショナル幼稚園」。全国から入園希望の電話がひっきりなしにかかってくる。二〇〇四年四月に開園し、四十四人の生徒のうち九割が日本人。一軒家程度の広さとあって、受け入れ可能な園児数は

第4部 日本に溶け込む ①

ほぼ限界。入園待ちの「行列」ができています。会話はすべて英語。幼稚園というよりも子供塾に近く、英語、算数、パソコン、科学など様々なことを学ぶ。教材のほとんどがインドのものだ。

二ケタの九九まで習得する算数で注目を集めるインド式教育だが一詰め込み式で、遊びの部分が抜けている」とサンク園長。遊びながら学ぼうと

取り入れたゲームや歌に、子供たちは夢中だ。幼稚園内には透明の箱に入った自家製パソコンがある。「これはなに？」と子供が尋ねると「これは回路」と仕組みを教え、あくまでも主眼を置くのは個性の尊重。「全部でできる人は誰もいないが、誰でも何か得意なところがある」（サンク園長）。子供に自信をつけようとする教育方針が母親たちに支持される。

せんせいはインドじん

「JAPAN」+「ASIA」=「JAPASSIA（ジャパシア）」。「米国や英国だけが外国」ではなくて、世界には色々な人がいるんだ姿を描く。

日本の中の幼稚園に広がる小さなアジア。子供たちが大きくなる二十年后、日本の舵（かじ）を取っているのは新しいアジア人かもしれない。

準備圭子さん（36）は二人の子供を通わせている。先生たちの国籍はインド、スリランカ、マレーシア、シンガポールと多岐に及ぶ。